

2003年～2012年
ねん ねん



すべての人に教育を
ひと きょういく

国連識字の10年

こく れん しき じ ねん

United Nations Literacy Decade : education for all

「国連識字の10年」ってなんですか

こく れん しき じ ねん

国際連合は、2003年から2012年までの10年を「**国連識字の10年**」ときめました(2001年12月19日総会)。識字(リテラシー)とは、文字や言葉のよみかきをまなぶことにとどまらず、現在では、社会生活を営むための基礎的な力や、進歩する社会に自ら参加する知識や技能、さらには社会を批判的に認識し変革していく力をも意味しています。たとえば、仕事につながる技能、コンピューターや情報機器を使う力、法律を理解して活用する力、健康や環境などについての知識など

も、識字(リテラシー)と考えられています。

国際連合は、1990年を「国際識字年(International Literacy Year)」ときめ、世界で識字にたいするとりくみが進められました。その後、民間レベルで「国際識字の10年」としてとりくまれましたが、2000年の時点で、世界には8億8000万人のよみかきできない成人がおり、1億1300万人の子どもが学校にいけずにいるということがわかりました。この反省から、国際連合が「国連識字の10年」をきめたのです。

「国連識字の10年」はなにをめざすのですか

こく れん しき じ ねん

「国連識字の10年国際行動計画(2002年7月)」は、世界でよみかきできない人の数を半分にへらすことを目標にしています。そのために優先してとりくむグループとして、現在読み書きに困っている人、その60パーセントをしめる女性、学校に通えていない子ども、世界でも最も貧しい層、少数民族や先住民の人、移民、難民、障害者、高齢者をあげています。また、継続的

に学べる環境が必要だとして、学校教育や社会教育、職場や地域生活などあらゆる機会でのとりくみを求めています。

これらにとりくむために、国際行動計画は、6つの柱を示しています。

これをもとに、識字についての行動計画を策定してとりくむことが求められています。

識字の推進を政策の中心に位置づける。
生涯にわたる識字プログラムをつくる。
識字を支援する環境と文化をつくる。

識字への地域コミュニティの参加や自主運営を確保する。
行政、民間、市民、地域でのパートナーシップを築く。
調査・研究と監視・評価。

識字は生きる力です

しき じ い ちから

大阪においては、被差別部落での識字学級、在日韓
国・朝鮮人の識字教室、障害者の識字教室、公民館等
での日本語教室やボランティアによる日本語教室な
ど、200を超える学級や教室が開かれています。また、
11校の夜間中学校（中学校夜間学級）もあります。こ

これらの場所では、戦争や差別、貧困、障害があるなど
の理由で学校にいけなかった人々や、外国から日本に
こられた人々など、5,000人以上がまなんでいます。
ある学習者は、まなんだ文字と言葉でこう語ってい
ます。

「字のよみかきをおぼえて、めのまえがぱっとあかるくなりました」

「戦争や差別のため生活が苦しく、学校に行く機会をうばわれた。」

「障害があれば学校にこなくてよいといわれた。」

「字のよみかきもできないまま、一生懸命に生きてきた。」

作文には、文字をうばわれた苦しみと、文字をうばい返した喜びがあふれています。



(提供：茨木市道祖本識字学級)

「にほんごをおぼえて、じぶんがあかるくなったといわれます」

「外国から日本にきて、自分の国の言葉はわかるが、日本語は話せない。」

「言葉がわからないまま、家にとじこもり、だれともあうことができなかつた。」

学習者の言葉には、日本語教室にであい、言葉や文字をおぼえて、日本社会のことも少しわかるようになった
喜びがあふれています。

また、言葉や文字をしらなくても不自由することなく、胸をはってくらしていける社会をつくることも必要で
す。識字は、人間が人間として、自分に自信をもっていきっていくために大切な基本的な人権なのです。

「国連識字の10年」ととりくみましょう

いま大阪だけでも、およそ5～6万人が言葉や文字
のよみかきに不自由していると考えられています。ま
た、世界でよみかきできない人の原因が、貧困や差別
と強く結びついていることから、世界の識字のとりく
みに対する日本の支援は大切であり、国際的な交流や
協力が求められています。

大阪では、1990年の「国際識字年」から、識字・日
本語のとりくみを結ぶ交流会の開催や文集の発行、施

策の充実を求めるとりくみが進められてきています。
また、2002年4月からは、情報提供や学習相談のため
の「識字・日本語センター」が開設されました。
いつでも、どこでも識字・日本語学習ができる社
会、よみかきができなくても不自由しない社会をつく
りましょう。国連識字の10年で、日本と世界の識字を
さらに前進させましょう。

識字・日本語センター

識字・日本語に関する学級・教室の情報や、教材・冊子等の資料を収集し
て提供するとともに、ホームページでも発信しています。また、識字・日本
語に関するとりくみのために気軽に集まれる場所として活用していただ
けます。大阪府、大阪市、(財)大阪府人権協会、(社)大阪府人権協会、識字・日
本語連絡会が協同して運営しています。

開設時間：月～金曜日の10:30～17:00 TEL.&FAX.: 06 6561 9988
http://www.call.jsl.jp E mail: mb@call.jsl.jp

識字・日本語連絡会

1990年の「国際識字年」をきっかけに、識字・日本語にとりくむ団体や
個人、教室等が集まって国際識字年推進大阪連絡会を結成し、2002年5月
からは、識字・日本語連絡会として活動しています。現在、28団体と教室
で、よみかきこうりゅうかひの開催や文集の発行、識字・日本語の施策を
求めるとりくみを進めています。

事務局：財団法人大阪府人権協会
TEL.06 6568 2983 FAX.06 6568 2985